

## 〈魚沼米憲章 実践のポイント〉

### 1. 「高品質・良食味米」の維持向上のための10か条

- (1) 美味しさと品質を最優先した米づくりとするため、目標収量は510kg/10a(8.5俵)を基準とすること。
- (2) 玄米タンパク含有率は、美味しさの基準である6.0%を目標とすること。
- (3) 稲わらや籾がらは、田んぼにすき込み、堆肥や土づくり肥料等を施用し、土づくりに努めること。
- (4) 種子は県内で穫れた種もみを使用し、毎年更新すること。
- (5) 高温登熟に遭遇するリスクを避けるため、田植えは5月中下旬を基本とすること。
- (6) 稲の生育に合わせて中干し・溝切りを行い、生育診断に基づき穂肥を施用すること。
- (7) 稲の稔りを良くするため、落水は穂が出てから25日以降とし、高温の場合は可能な限り遅くまで落水しないこと。
- (8) 胴割等の品質低下を防ぐため、適期に刈り取り、適正に乾燥すること。
- (9) 整粒歩合の高い米に仕上げるため、調製には1.90mm以上の篩い目を使用し、丁寧に調製すること。
- (10) 全量が1等米に格付けされるよう、稲をよく観察し、気象情報に留意して、適正に各作業を実践すること。

### 2. 「安全・安心の米づくり」に向けた5か条

- (1) 環境と調和の取れた農業生産活動を進めるため、みどりの食料システム戦略やSDGs等の環境負荷低減の取組に努めること。
- (2) 気象変動による品質低下を避けながら化学合成農薬・化学肥料の使用量を慣行基準の5割以上減らすことを目指し、環境にやさしい農業に取り組むこと。
- (3) 農道や畦畔は、草刈りを基本とすること。
- (4) 生産履歴を記帳し、いつでも履歴情報が公開できること。
- (5) 安全・安心な栽培につながるGAPの実践を目指すこと。

# 魚沼米品質向上チラシ

安全・安心で高品質・良食味

## 日本一の「魚沼米」づくり

### 魚沼米憲章

トップブランド  
「魚沼コシヒカリ」の更なる  
飛躍を目指して

#### 【序文】

トップブランド魚沼コシヒカリの産地として、魚沼の自然、そして何よりも消費者と向き合った米づくりを続けるため、以下四つの取り組みを魚沼米に携わるもの全ての共通理念として掲げ、生産者・関係団体が一体となって実践する。

- 一、魚沼コシヒカリを育んだ故郷魚沼の自然に感謝し、地域の環境保全、景観に配慮した農業を推進します。
- 一、日本一の良食味産地として、消費者に最高の食味の魚沼コシヒカリを安定的に提供するため、「高品質・良食味米」の維持向上のための10か条を徹底して実践します。
- 一、消費者との対話に努め、常に消費者に安全・安心を提供していくため、「安全・安心の米づくり」に向けた5か条を徹底して実践します。
- 一、常に栽培技術の向上・研鑽に努め、米づくり八十八の手間を惜しむことなく、最後の一粒までトップブランド魚沼コシヒカリに仕上げます。



魚沼米改良協会

# 「日本一おいしい」魚沼コシヒカリ生産のポイント

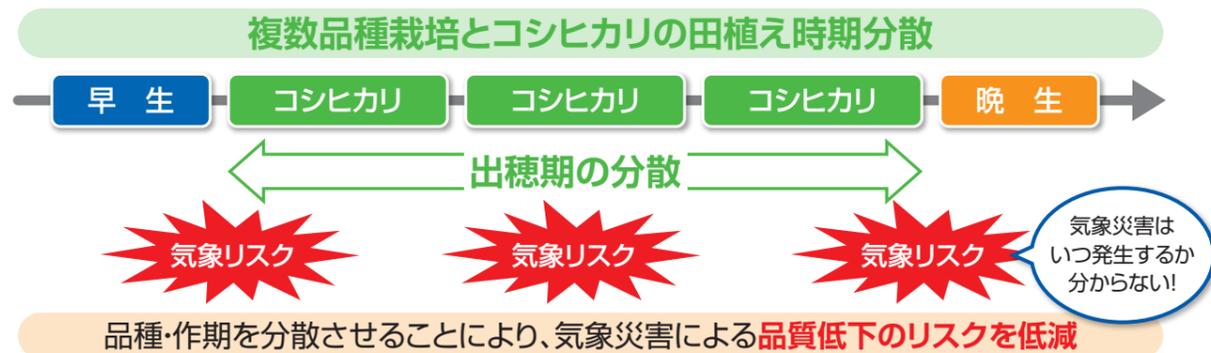
高品質米の安定供給をめざし、初期生育の確保、適期中干し、後期栄養確保等を徹底しましょう

## 1 土づくりと適量基肥で異常気象に強い稲体にしましょう。

- ★土壌診断に基づき、ケイ酸を含む土づくり資材や堆肥等を施用し、異常気象に強い稲体に育てましょう。
- ★稲わら・籾がらの秋すき込みで、地力の向上を図りましょう。
- ★耕深15cmを目標に耕うんし、根の健全な発達を促しましょう。
- ★過去の生育状況や土壌条件等を踏まえ、基肥施用量を見直しましょう。特に、全量基肥肥料で倒伏したほ場では、減肥を検討しましょう。

## 2 良質茎を早期に確保するため、健苗を育成しましょう。田植え時期の分散などにより品質低下のリスクを減らしましょう。

- ★田植えは5月中下旬を基本としましょう。田植え時期の分散などで高温登熟等に遭遇するリスクを避けましょう。
- ★田植え時期に合わせた播種により、活着の良い健苗を育成・移植し、早期に初期生育を確保しましょう。



## 3 適期に中干しを行い、生育調節で倒伏防止を図りましょう。

- ★ワキの発生が多い場合は、水の更新や夜間落水を行いましょう。
- ★中干しは、田植え25日後頃に生育を確認し、茎数が目標穂数の7~8割確保できたら直ちに始め、遅くとも田植え30日後には始めましょう。適期に中干しに入ること、稈長の伸長を抑制し、倒伏に強い稲姿になります。
- ★溝切りを必ず行い、田面水の速やかな排水や異常高温時に速やかなかん水ができるようにしましょう。
- ★中干しの強さは、田面に小ヒビが入る程度とし、遅くとも出穂期1か月前をめどに終了しましょう。

中干し開始時期の稲姿

1株の茎数のめやす  
50株セットでは  
18~19本



溝切りを必ず行い  
溝と溝は確実に  
つなげましょう。



## 4 生育診断に基づく穂肥で後期栄養を確保しましょう。

【分施肥体系】

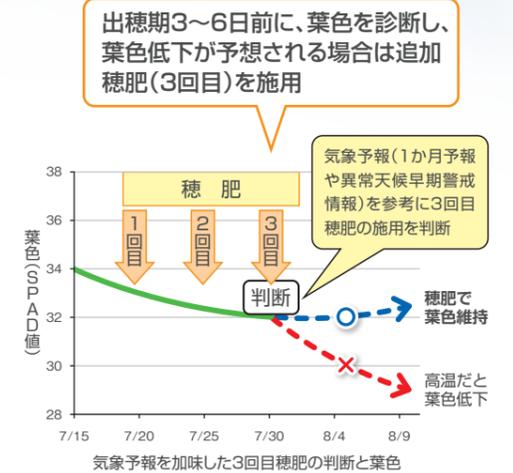
- ★穂肥1回目(出穂期18~15日前)は幼穂形成期に生育診断を行い、穂肥の時期と施用量を決め、籾数確保と倒伏防止を図りましょう。
- ★穂肥2回目(出穂期10日前)は必ず施用し、後期栄養を確保しましょう。

【全量基肥体系】

- ★出穂期の葉色値(SPAD値)が32~33を下回ると予想される場合は、追肥を行いましょう。

異常高温時の対応 | 追肥穂肥(3回目)

- ★栄養凋落が懸念される場合、分施肥体系と全量基肥体系いずれも、追加穂肥を出穂期3日前までに施用する。

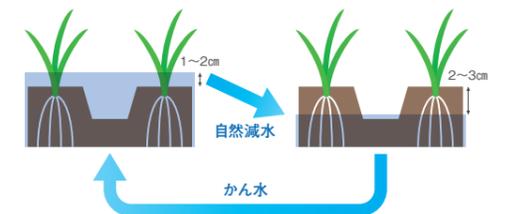


## 5 中干し終了後は飽水管理で、後期栄養を維持しましょう。

- ★中干し終了後は、限りある用水を有効利用する飽水管理を徹底し、高温時の地温の上昇を抑え、根の健全化を図りましょう。
- ★落水期は出穂期25日後以降にしましょう。また、用水が確保できる地域では、出穂期30日後まで飽水管理を継続しましょう。

異常高温時の対応

- ★地域の水利条件に応じて、輪番、水番などの水管理体制を話し合い、こまめな水管理で水温上昇を抑制する。



【飽水管理とは】  
水戻を止し、浅く灌水した後、自然減水で田面の水がなくなり溝や足跡の底に水がたまっている箇所が見える状態になったらかん水すること。  
(根腐れ防止のため、ため水にしない)

## 6 適期に収穫し、丁寧な乾燥・調製作業で良食味に仕上げましょう。

- ★出穂後の積算気温を参考に、籾の黄化率を確認してから、適期に収穫しましょう。
- ★適正な乾燥速度となるよう、張込水分に応じた乾燥温度を設定し、胴割粒の発生や過乾燥を防止しましょう。
- ★適正流量による丁寧な調製や篩目1.9mmを活用し、整粒歩合の高い米に仕上げましょう。

異常高温時の対応

- ★品質低下防止のため、早めに収穫を開始する。

## 7 斑点米の発生を防止しましょう。

- ★斑点米カメムシ類の発生源をなくすため、農道・畦畔と水田内の雑草管理の徹底しましょう。
- ★使用する薬剤に合わせ、適期に適正防除を実施しましょう。

被害を与える  
主な  
カメムシ類



アカスジカスミカメ



アカヒゲホソドリカスミカメ

出典：新潟県農業総合研究所作物研究所センター

お問い合わせは各地域のJA・普及指導センターまで